

第116号



発行：西郷村企画開発課

印刷所：ワタベ印刷所

西郷村の人口及世帯数

(53. 1. 1 現在)

世帯数 2,785(+3)

人口 12,147(+13)

男 6,031(+3)

女 6,116(+10)

昭和53年2月1日発行



〈大会趣旨〉

さまざまな社会問題が生活を脅かそうとしている今日、村内すべての人が、心豊かに不安のない毎日を過ごすことが私達の願いです。

そこで、地域の各種団体・行政機関や村内有識者がより集い、協力体制を作って協議し合い、本当に住んで良かったと言われるようなコミュニティ（地域共同体）づくりをしたいと思います。

※関係記事を第2面へ

第1回

西郷村コミュニティづくり大会



活発な活動を続ける青年会・婦人会

— 第一回西郷村コミュニティづくり大会から —

一月二十二日、午前十時から西郷村中央公民館で、西郷村婦人会連絡協議会、西郷村連合青年会主催による第一回西郷村コミュニティづくり大会が開催されました。この日は青年会、婦人会をはじめ村議会議員、区長会、PTA、老人会、社会教育委員、公民館運営審議委員、農協婦人部の方々が多数出席し、村から村長、助役、収入役、教育長も出席、総勢で一二七名の活発な意見の交換が行われました。

青年会、婦人会では生活の合理化及び青少年の健全育成等の協議主題のもとに

- 一、冠婚葬祭について
- 二、青少年の健全育成について
- 三、公民館設置運動の展開

の三つの問題を提起し、同じテーマを三分会に分かれて活発な意見の交換が行われ、午後の全体会で次の様にまとめられました。

一番目の冠婚葬祭については香典返しも廃止の方向で進められました。社会的なこともあるのです、具体的には今後の話し合いによることにしました。

病気見舞のお返しは、廃止の

方向で一致しました。例外として、長寿者は名人の湯飲みなどはよいのではないかと意見も出ました。結婚式については、現在は大変おかげさになってるので簡素化を図りたいがなかなか簡単には決まらず、会員制などで青年会が中心になり積極的に進めるのも方法ではないかと意見もありました。しかし、一方では昔からの風習、しきたりなどもあり人間の一生の中で出生、結婚、死亡の時は一番大事なことであり、贈り物は心と心の触れ合いの面もあるので、意が通る様な方法で十分配慮して、従来通りコミュニティシヨンの機会を大切にするとともに、味気ないものにならない方法で簡素化すべきであるという提案もありました。そこで、村で新生活運動推進協議会を早急に設置し、最も望ましい標準的なものを作り、これをPRし、村民の判断をまかすということになりました。

二番目の青少年の健全育成については、高校生の非行が増加しているおり、親子の行動をいかに理解しているか、どの程度理解ができていないか、先生まかせが多いのではないかと手きびしい意見が出ました。これに対しては、親が家庭のしつけに自信をもつて当たるべきで、父親も母親任せにしないで積極的に参加し、両親で、PTAなどを中心にもっと、勉強したらよいのではないかと意見もありました。又、子供達が集団生活の楽しさを経験させる意味で、友愛、規律、奉仕の精神を養うため少年教室を開設して、親も一緒に活動を行なうことは建設的な意見も多数出ました。

これに関し、青年会からは、今年が積極的に子供達と一緒に活動したいとの話がありました。

青少年の問題は、非常に広く奥深いもので、今後は期待されるリーダーの育成に努めて行くべきだという貴重な意見なども出ました。

三番目の公民館設置運動の展開については、どの様な公民館を作ってほしいのか、各種団体で要請して行った方がよいのではないか。又、げたばきでも入れ気軽に利用できる公民館との声もありました。これに対し村からは、村民の期待に応えるべく今後は進めて行き、地域の実情にあったものを設置したいとの話がありました。

お米の文論

無実の罪

▼「お米の多産地方に脳卒中が多い」といわれています。確かに、秋田県や山形県などの米どころでは、脳卒中による死亡率が平均より高くなっています。だからといって、「お米を食べると脳卒中になる」と短絡して伝えられるのはまさに「大なる誤報」というほかありません。▼桜美林大学教授で農学博士の川島四郎氏は、「お米は無実の罪をかぶせられて」というのです。「稲作という作業は苗代るときから田植え、草とり刈り入れとその労働姿勢は常に頭を下げ続けた。だから頭に血が集まり、脳内の血圧が上がる。」

同じ村で同じ米を食べながら

「お米を食べるとふと」というもうひとつの「伝説」へと展開していくわけです。こうした誤報や伝説がいま私たち日本人の食習慣をゆがめているとしたら、後世の人たちにうらまれるかもしれません。

▼「お米の多産地方に脳卒中が多い」といわれています。確かに、秋田県や山形県などの米どころでは、脳卒中による死亡率が平均より高くなっています。だからといって、「お米を食べると脳卒中になる」と短絡して伝えられるのはまさに「大なる誤報」というほかありません。▼桜美林大学教授で農学博士の川島四郎氏は、「お米は無実の罪をかぶせられて」というのです。「稲作という作業は苗代るときから田植え、草とり刈り入れとその労働姿勢は常に頭を下げ続けた。だから頭に血が集まり、脳内の血圧が上がる。」

同じ村で同じ米を食べながら

「お米を食べるとふと」というもうひとつの「伝説」へと展開していくわけです。こうした誤報や伝説がいま私たち日本人の食習慣をゆがめているとしたら、後世の人たちにうらまれるかもしれません。

『御芳志』

1月15日現在、次のとおり村社協にご芳志が寄せられていますので御報告いたします。

ご芳志を寄せられた方々に深く感謝するとともに村福祉充実役に役立ててまいりたいと考えております。

- 1.小針茂二(故人の意志により) 50,000円
- 1.大綱信慧(故人の意志により) 50,000円

▶手を取り合い、励まし合おう▶

「心身障害児(者)親の会」結成真近か!!

結成準備が進む！
障害児(者)のいる家族の方の参加をお待ちしております。

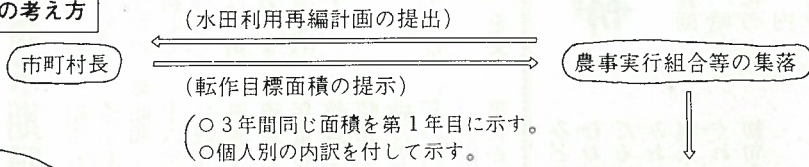
(西郷村社会福祉協議会)

一転作の進め方一

☒ 皆んなで話し合い、集落ぐるみで転作をすすめましょう。

集落ぐるみで、転作の計画を立て、市町村長より「水田利用再編計画の認定を受け、目標が達成されますと、転作奨励補助金の他に計画加算金が受けられます。

計画加算の考え方



損得

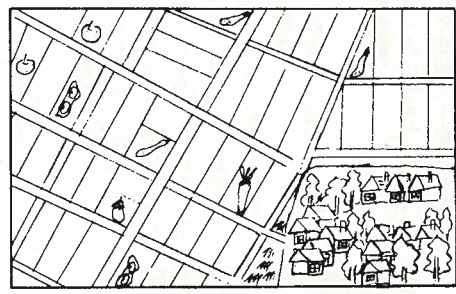
- 湿害で、品質悪く減収→良質多収。
- 個人作業で労力がかかる→機械化・共同で省力。
- 思い思いに作るの、販売が不利→まとまったものを有利に販売。
- ばらばらでは計画加算が受けられない。→計画加算の奨励補助金の対象

皆んなで話し合い。

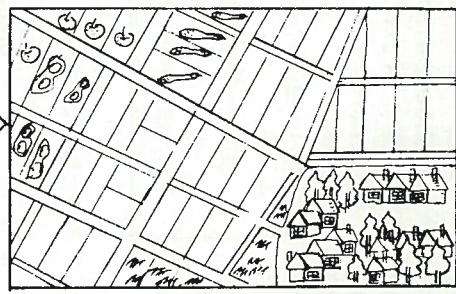
- 何を作るか。○ 転作田の集団化の方法
- 用排水の管理方法 ○ 田畑輪換の方法
- 個人別の調整について。

水田利用の現況

水田利用の将来の方向



(バラバラと雑多に作られている。)



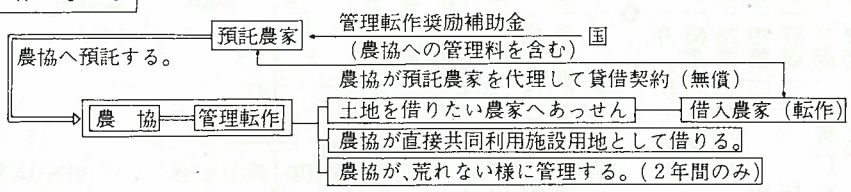
(水系別に品目をしぼり集団化する。)

米の需給均衡化対策として今年から実施される水田利用再編対策の転作等目標面積の本村への割り当ては一三七ヘクタールで、これは昨年実績の二・一七倍、全水田面積の十一・二％にあたるきびしいものです。村ではこの実態を重視し、村民各層及び農協等の各団体の代表者五十余名で西郷村水田利用再編対策推進協議会を設置し、目標の配分方法や推進指導体制等について協議を重ねてきました。そして、一月三十一日に農事組合長会議を開催し、この水田利用再編対策の趣旨を充分御理解して頂きまして各部落別に目標を配分致しました。今後は各部落で水田利用再編計画について話し合いをして頂き、計画書を作成し、村長に提出の上、認定を受けます。村ではその計画書にもとずき二月末日までに正式配分を決定する予定です。

☒ 自分で転作できない場合は、農協による管理転作を活用しよう。

労力などの関係で転作ができない場合は、農業協同組合等へ転作田を預託します。農業協同組合は、転作田を借りたい農家へあっせんします。預託した農家へは管理転作奨励補助金が支払われます。すぐに借り受け者がいない場合は、農協が管理します。(農協等とは市町村も含まれます)

管理転作の考え方



戦没者遺族の皆さんへ 戦没者特別弔慰金 請求期限せまる!

国は終戦三十周年を迎え、昭和五十年四月より戦没者の方々に対し弔慰の意を表わすため弔慰金を大幅に増額し支給しておりますが、左記受給該当者でまだ、請求していない方は、請求期限が間近にせまっております。至急役場で請求手続きをされますようお願い致します。

1、請求期限

昭和五十三年三月三十一日

2、受給該当者

※特別弔慰金(三万円)を受

給された遺族(時効により請求されなかつた方も該当) ※昭和十二年七月七日から昭和十六年十二月七日までの期間に戦死された遺族で遺族内に遺族年金等の受給者がいない遺族(遺族内に一人でも遺族年金等を受給している場合は該当しない) ※昭和十六年十二月八日以後の戦没者の遺族で、昭和四十七年の四月一日から昭和五十年三月三十一日までの間に戦没者等にかかる遺族年金等の受給

者が死亡又は失権されている遺族 ※現在まで弔慰金を受給できる権利を有しながら時効により請求出来なかつた遺族又は、昭和四十七年四月一日から昭和五十年三月三十一日の間に弔慰金のみを受給した遺族。

3、請求権者

戦没者の妻、父母、兄弟姉妹子供

4、支給金額

戦没者一人につき二十万円の国債にて交付(十年で一年に一回二万円受領)

5、請求手続

請求手続、その他詳細については、役場住民課にお問合せ下さい。

俳句・川柳

咳落しゆきて一人の教師たり 桃晴
子の咳に思い余りし母の顔 源内
艸央の訪れならん咳聞ゆ 竜郵
咳こらえ受賞の品を受けにけり 京子
狂ひ咲淡き紫いとほしく 七イ

みどり子の声より明け初むお元日 千代子
だるま市籠の中よりならみおり 清二
寒木瓜のひそかに赤くほぐれけり 和英
初句会世間話と隣して 周平
—〇—〇—〇—〇—
栄転と左遷皮肉な春の駅の輪 六郎
若人の夢が燃えてる禁火の輪 ユキ子

紐を解く手元へ里の香がこぼれ 栄子
大物が紐で繰る舞台裏 昭子
世の隅に馬令重ねてひそと住み 酔石
シャンシャンと鈴のお馬も泣いている 教恵
絵馬札にすがる受験の子の祈り 照子
駄馬にある根性蹄の深い跡 静酔
低迷を天馬に賭ける鈴の音 文子

国民健康保険が12月中に 支払った医療費等の状況

区分	件数	支払額	支払額の対前月増減		
医療費	入院	103	10,723,391	1,738,240	12月中に納入された国保税
	入院外	2,234	11,254,312	△1,533,672	
	歯科	273	1,179,318	△170,716	
	計	2,610	23,157,021	33,852	
高額療養費	78	2,311,723	466,766		
助産費	6	360,000	△120,000		
育児手当金					
葬祭費	9	90,000	35,000		
合計	2,703	25,918,744	415,618	12,898,430	

村のおめでた かなしみ

12月分
届出より

◆おめでた◆
氏名 保護者 部落
大高 悦子 力 黒川
小林美和子 好文 上新田
森 貴之 勝春 追原
田部井里美 吉夫 下折口原
亀井 幸江 政幸 熊倉
石井真由美 文夫 下折口原
高木 雅教 信嘉 鶴生
梨本 尚子 尚山 上折口原
桜庭 知子 隆夫 下新田
小山 貴子 敏夫 長坂
菅谷 貴之 賢治 下羽太
相川 まや 謙太郎 上新田
真船 勇樹 恒一郎 下折口原

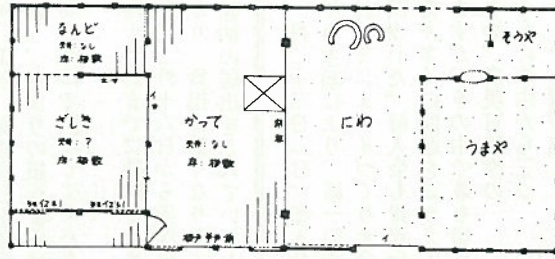
◆かなしみ◆
清野 理絵 博 上新田
金沢 賢一 宗 黒川
菊地 美穂 光 男 上折口原
福田 絃子 博道 米警察アパート

◆おめでた◆
氏名 年齢 部落
和知 シノ 63歳 米
遠藤 長松 78歳 倉
真船喜子三 79歳 原
鈴木 福次 87歳 長坂
八木沢雅彦 0歳 上折口原
多治 比實 62歳 米
安藤 ヤイ 74歳 さつき庄
星 武雄 70歳 さつき庄
小池 栄吉 81歳 やまぶき庄
菊池 勝子 36歳 鶴
大高 一雄 52歳 柏
小針 タミ 94歳 米
野生

文化 戦だより

西郷村の産馬 ⑦

海老名藤太氏宅復原平面図 (『福島県の民家Ⅳ』より)



○馬と生活

馬が農家にとって欠かせないものであったころ、馬は単なる家畜ではなく、人間の良き友人であった。

農家の生活は馬と共に始まり、馬と共に終わった。

農家の一日は朝草刈りにはじまる。まだ薄もやのたちこめる



馬の舎

山道を馬をひいた百姓がのぼつてゆく。朝日が中空にむかつてのぼりはじめるところ草を積んだ馬が山道を白い息を吐きながらおりて来る。

この草は馬のエサであり、そして田んぼや畑に入る肥料でもある。

近世、馬の飼料は主に林野からこのように刈り出されるのであった。この林野は入会地と呼ばれる共同利用地で、おのずから採取量も制限されるので論争もひんばんであった。これを入会地論争と呼ぶ。

馬の生草刈りは田植ごろから九月の青草の枯れるギリギリの時期まで行なわれ、通常一駄に六束ずつつけた。

この生草は厩の下に敷き、馬にふませ、それを堆肥として積

戊辰戦争 ②

(一) 戦いの火ぶた

四月四日、江戸城は西軍の手に渡った(無血開城)。

ついに追討のほこ先は容保にむけられた。加えて参謀世良の暗殺は容保追討を決定的なものとした。

当時、阿部氏は棚倉に去り、白河藩は二本松藩によって守備されていたのであるが、世良の事件を契機に会津討伐は急転した。そこで仙台藩は会津に対して白河藩の占拠を内密に勧めた。

閏四月十六日、会津藩は仙台藩の勧告に応じ、大平方面に兵を出し、真名子に陣し、白河をうかがっていた。

二十日暁天、会津軍は真名子虫笠より進軍した(兵数百三十余、あるいは三百人とも伝わる)。堀川をはさみ小銃撃戦があったが、守備軍はたわいもなく

み、田畑の重要な肥料となった。金肥のあまり使用されていなくなった近世において、この厩肥は最高の、また最小限の肥料だったのである。(つづく)

兵を引いた(守備軍勢千二百人と伝えられる)。この時、白河城が落ち、道場小路、会津町が全焼した。

(三) 先勝会津軍

白河城が会津の手に落ちたことを知った官軍は急ぎ、二十一日大田原を発し、油井、東谷の東軍勢を打破り、二十四日芦野に兵を進めた。

閏四月二十五日暁天、宮軍白河を攻める。この日の戦いは明け方より日中まで激戦がほとんど間断なく続いたが、三方より包囲された官軍はついに破れ、芦野まで退いた。

この戦いで薩、長、大垣の十三の首級があげられる。白河城大手門につるされた。

城門はその首を見る者で黒山のひとだけりであったという。

(四) 白河城、官軍の手に落ち

二十五日の勝報に、東軍は兵数を増した。

一方官軍は因州備前大村、柳

川、佐土原の援軍が来ることになり、ひとまず、宇都宮からの援軍を得、兵数七百余、砲七門を以て白河をせめることになった。

五月一日午前四時、官軍は兵を三道に分け進軍をはじめた(棚倉街道、本道、原方街道)。

午前六時頃、まず中央隊が戦火を開き、三方面で戦いは一勢に始まった。戦いは午後二時頃まで続き、官軍諸隊は諸方より東軍を潰滅状態に追い込みついに白河城を占拠した。

五月の戦いは二十二日、二十六日、二十七日、二十八日と小戦があった。二十六日の戦いで米、柏野、長坂、羽太などが全焼、あるいは半焼したという。

(五) 六月十二日の戦い

五月中の戦いが体制をくつがえすようなものがなかったのに対して、この日の戦いは白河口の占有をかけた大戦であった。そのため、この日は五月一日に次ぐ戦いとなった。

両軍どちらにとっても白河口における勝敗の意味は大きく、東軍が白河を失しようということでは会津をはじめ東北諸藩の滅亡を意味した。(つづく)

税務署だより

所得税第3期分の納期限は

3月15日です

早目に準備をして申告と納税をすませてください。

納める税金は、同封の納付書に住所、氏名、税額などを自分で記載し、もよりの銀行または郵便局の窓口で納税してください。

三月十五日までに納税されませんと、三月十六日から延滞税がかかります。負担が重くなります。また延納の届出をされていても

納税ができなくなり、直ちに金額を納付していただくことになります。

納税に便利な「口座振替制度」を御利用ください。手続は簡単です。くわしくは、市町村役場、農協、銀行等または当署管理徴収部門(☎白河②7111)にお尋ねください。

子供達に

明るい未来を!

生まれつき手足に異常(指の欠損やゆ着・変形、関節異常、耳の欠損等)を持つ子供の親達により先天性四肢障害父母の会が生まれました。全国的な組織として、いろいろな活動をして

おりますが、県支部でも皆様方からの連絡を待っています。

父母の会は子供達に明るい未来を願ひ、福祉、医療、教育の面でお互いに助け合い、励まし合ひ、これらのことを国や日自治体に働きかけてゆきたいと考えています。

それには先ず、実態調査が必要で、子供が生まれた前後の様子、現在おかれている社会環境障害があるが為に受ける差別、偏見などを調査の対象にしています。

先天性四肢障害の原因が究明され二度とこの様な不幸な子供が生まれることのない対策が立てられ、一刻も早く安心して子供

供を産める社会、子供達の為に明るい未来を願っています。該当児をお持ちの方の御協力と連絡をお待ちしています。

連絡先
千九七九-111
福島県双葉郡富岡町本町
二六三の三

父母の会 望月治

(02402-214211)

明るいくらしの設計

簡易保険新加入運動

新年を迎えて、どちらさまも本年はよい年で健康でありますように年頭祈願をされたことと存じます。

郵便局では、保障と貯蓄で明るい生活設計をしていただくため一月から三月まで簡易保険加入運動をすることになりました。思わぬけがや病気の保障は簡易保険で一人一千万円まで加入できます。特に新入学児童をお持ちのご家庭では学資保険をおすすめいたします。

なお、西郷村の簡保還元融資額は現在まで二億二千万円となっており義務教育施設などに融資されて村政発展のために役立っております。(白河郵便局)



財形住宅貸付けの受付案内

住宅金融公庫では、財形貯蓄をしている方を対象に「財形住宅貸付け」の申込受付を二月二十八日まで行っています。この貸付けを公庫の個人住宅貸付けなどとあわせて利用する場合は、住宅が竣工するまでに申し込むことになっていますが、住宅の竣工が三月と五月になる予定の方は必ず二月二十八日までに申し込み下さい。

○融資額

財形貯蓄高の二倍。ただし、その額が一千万円を超える場合は一千万円が限度

○利率

年六・三パーセント

○返済期間

本造一十八年以内

簡易耐火構造一二十五年以内

耐火構造一三十五年以内

※詳しいことは、左記公庫業務取扱金融機関又は住宅金融公庫へおたづね下さい。

東邦銀行白河支店・大東相互銀行白河支店・福島相互銀行白河支店・白河信用金庫白河本店・福島県信連白河支所。



活動する青年会

一月二十二日(日)婦人会青年会主催により、第一回西郷村コミュニティづくり大会が開かれた。婦人会も青年会も常々多くの問題をかかえています。その中で最も切実なもの、実現可能性のあるものの中から三つのテーマを選び出しました。

- 1、新生活運動の一環として香典返し、見舞返しの廃止を推進する。
- 2、青少年健全育成として家庭教育の充実、子供の育成などをほかる。
- 3、今後公民館設置運動を続ける。

この会議は、去年までは郡単位で行われたものであります

